

妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究

愛育病院 産婦人科
藤井 仁
青木 正
日本総合愛育研究所
千賀 悠子

愛育病院で分娩した産婦を対象とし、妊婦の貧血が妊娠・分娩に与える影響について調査、検討を行った。

1. 調査対象

1. 期間

昭和51年9月1日から昭和52年8月31日の間に分娩した症例

2. 対象除外例

- a) 帝王切開例、明らかな子宮筋腫合併例、双胎例及びDM例
- b) 妊娠24週未満
- c) 年齢が20歳未満及び40歳以上
- d) 身長が145 cm未満及び166 cm以上
- e) 月経周期が不順な症例を対象外とした。

3. 貧血例と対象例の選定

a) 貧血例

妊娠中にHb値が10.9 g/dl以下を示した例を貧血例とした。182例が該当した。貧血の程度によって更に次の3群に細分した。即ち

- (i) 軽症 10.9～10.0
- (ii) 中等症 9.9～9.0
- (iii) 重症 8.9 g/dl以下

b) 対照例

Hb値が11.0 g/dl以上で、除外条件を満足する症例とした。かつ、対象となった貧血例の直前に分娩した症例とした。直前の症例が該当しないときは3症例まで逆上った。そして182例を選定した。

2. 調査・検討項目

次の各項にわたって調査検討を行った。

1. 貧血と年齢

- a) 貧血の程度と年齢
- b) 貧血の発現時期と年齢

2. 貧血と初・経産

- a) 貧血の程度と初・経産
 - b) 貧血の発現時期と初・経産
- ### 3. 貧血の程度と分娩周数、 貧血と児体重および低出生体重児、SFDの発生 貧血と分娩時間
- a) 貧血の程度と分娩時間
 - b) 貧血の発現時期と分娩時間
- ### 6. 貧血と分娩時出血量
- ### 7. 貧血と妊娠中毒症
- a) 妊娠中毒症発現頻度
 - b) 浮腫発現頻度
 - c) 妊娠中毒症の発現時期
 - d) 浮腫発現時期
 - e) 妊娠中毒症出現頻度
 - f) 浮腫の出現頻度
 - g) 貧血の発現時期と妊娠貧血

3. 有意差検定

有意差の検討は χ^2 検定により、有意水準5%で行った。

4. 検討結果

1. 貧血と年齢

年齢を20～29、30～34および35～39歳にわけて比較検討した。貧血の程度、発現時期に有意の差は認められなかった。

2. 貧血と初・経産

貧血の程度、発現時期に差は認められなかった。猶、対象側に3回以上経産の例はいなかった。

3. 貧血の程度と分娩週数

- a) 貧血の程度と分娩週数の間に有意差はなかった。
- b) 妊娠前期（妊娠20週未満）および後期（妊娠20週以後）のいずれの時期にも貧血(+)の症例と前期(-)で後期(+)であった例の間にも分娩週数に差はなかった。

- c) 妊娠第7月に貧血の認められた妊婦の分娩週数についても対照との間に差はなかった。
4. 貧血と児体重および低出生体重児、SFDの発生
妊娠第7月における貧血の有無・程度との間に、これら項目に関して差は認められなかった。
5. 貧血と分娩時間
初産と経産とに大別して、貧血の程度・発現時期のいずれからみても分娩時間に差は認められなかった。
6. 貧血と分娩時出血量 (表1)
- a) 貧血例と対照を比較するに、750~999, 1,000~1,249, 1,250~1,449 および 1,500 ml以上のそれぞれの区分における有意差は認められなかった。
- b) 250 mlづつの段階的の区分を行い、それにより出血が多量と少量の2区分間で貧血例と対照を比較検討したところ、750, 1,000 mlのそれぞれを境として有意差が得られた。
- c) 貧血の後期発現例では出血量750mlを境にして対照との間に差が認められた。
- d) 貧血の後期出現例における出血量の平均値は対照例に比して有意に高かった。即ち対象例 312.2 ± 176.0 , 貧血後期出現例 382.9 ± 287.7 ml、又貧血の程度によっても出血量に差が認められた。即ち軽症 377.9 ± 266.1 , 中等・重症 423.2 ± 386.6 mlであった。
7. 貧血と妊娠中毒症
妊娠中毒症は日産婦学会の定義によった。
- a) 対照と貧血例とで妊娠中毒症の発生頻度および

- 発現時期に差は認められなかった。
- b) 貧血例に浮腫発現の頻度が高く、差が認められた。
- c) 浮腫の発現時期は、貧血例では妊娠27週6日までの妊娠の比較的早い時期に浮腫の発現する頻度が高く、対照との間に差が認められた。(表2)
- d) 貧血の発現時期と浮腫の発現時期は一致していないようである。
- e) 妊娠中毒症の妊娠週数別による出現頻度については、妊娠24週0日~27週6日例で貧血例が対照に比して高かったが差はない。
- f) 浮腫の妊娠週数別出現頻度については、貧血例と対照の間に差が認められた。
8. 貧血の発現時期と妊娠貧血 (表3)
妊娠貧血182例中妊娠12週0日未満 8.8%, 12週0日~15週6日 4.9%, 16週~19週6日 12.6%と妊娠の前半に既に貧血が存在する例がかなりの数に認められた。

5. ま と め

愛育病院において分娩した妊娠の貧血が母児に与える影響について検討した。検討項目は昭和52年度に引きつづきはほぼ同様の内容であるが、症例数を追加して昨年度に統計的有意性や傾向が認められた項目について更に詳細な重点的検討も行った。そして、いくつかの有意ある項目が得られた。しかし、単一様関では症例数が少く、ひきつづき全国的な規模にわたっての検討により、異論の生じない定説的結果が得られることが望まれると考える。

(表1) 貧血の程度と出血

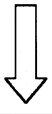
	~ 249 ml	250 ~	500 ~	750 ~	1,000 ~	1,250 ~	1,500 ~	計
対象例	42.9% 78	44.5% 81	9.9% 18	2.2% 4	0.5% 1	0 0	0 0	100.0% 182
貧血例	30.2% 55	50.0% 91	9.3% 17	6.0% 11	1.6% 3	1.1% 2	1.6% 3	100.0% 182
10.9 ~	44	75	16	9	1	2	2	149
9.9 ~	9	15	1	1	2	0	1	29
8.9 ~	2	1	0	1	0	0	0	4
計	133	172	35	15	4	2	3	364

(表2) 浮腫の発現時期

	~ 19w 6T	20w 0T ~	24w 0T ~	28w 0T ~	32w 0T ~	36w 0T ~	40w 0T ~	計
対象例	0 % 0	0 % 0	9.1% 4	20.5% 9	13.6% 6	45.5% 20	11.4% 5	100.0% 44
浮腫 (+)	0	0	4	9	6	18	4	41
浮腫 (++)	0	0	0	0	0	2	1	3
貧血例	2.9% 2	7.2% 5	10.1% 7	11.6% 8	23.2% 16	37.7% 26	7.2% 5	100.0% 69
浮腫 (+)	2	5	7	8	15	22	4	63
浮腫 (++)	0	0	0	0	1	4	1	6
計	2	5	11	17	22	46	10	113

(表3) 貧血の発現時期

妊娠 貧血 発現 週数	~ 11w 6T	12w 0T ~	16w 0T ~	20w 0T ~	24w 0T ~	28w 0T ~	32w 0T ~	36w 0T ~	40w 0T ~	計
頻度	8.8%	4.9%	12.6%	20.9%	8.8%	18.2%	20.4%	4.9%	0.5%	100.0%
例数	16	9	23	38	16	33	37	9	1	182



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



愛育病院で分娩した産婦を対象とし、妊婦の貧血が妊娠・分娩に与える影響について調査,検討を行った。